

江北の四季

令和2年
8月29日
第22号

○処暑、第四十一候、次候、天地始肅(てんちはじめてさむし)。

「肅」は縮む、しずまるという意味です。天地の暑さがようやくおさまり始める頃。

お盆を過ぎても、地蔵盆を過ぎても、暑い日が続きます。八月ももうすぐ終わりだというのに。

白花の芙蓉が花盛りです。赤花も咲き出しました。酔芙蓉は育てていません。酔っぱらう特権は人間だけにしておきましょう。



カクレミノ(隠れ蓑)。日陰でもよく育ち、耐暑性も強く病気にもなりにくい木なので、家の北側に窓の目隠しとして植えています。蓑は災厄から身を隠すとして縁起のよい木です。背丈くらいになってきました。

○二百十日(にひゃくとおか)。

雑節の一つで立春(今年は二月四日)から数えて210日目を二百十日といい、今年は八月三十一日となります。台風は農作物に甚大な被害をもたらすので、稲の収穫を目前にしたこの時期に警戒の意味で設けられているようです。警戒と言っても祭りをやって神様に収穫の無事を祈るくらいしかできませんね。

1959年(昭和34年)9月26日に潮岬に上陸した伊勢湾台風で大きな被害を受けたことから、この翌年に、9月1日が防災の日と定め

られました。この日は二百十日となる年が多いことと関東大震災が1923年(大正12年)9月1日に発生したことにちなんでいます。

○蛇足。

季節の移り変わりを示すものに、七十二候、二十四節気、五節句がありますが、元はどれも中国から伝わったものです。雑節と呼ばれるものは、日本の生活や農作業の中で培われてきた日本独自のものです。節分、彼岸、八十八夜、入梅などです。



ジュズタマ(数珠玉)。多年草で川の土手によく見られ、1m50cmくらいの高さになります。数年前、種を採って畑にまきました。八月から九月に花が咲き、白色、灰色、褐色などに色づいた硬い実ができます。名の由来は、この実を糸でつないで数珠の玉にして遊ぶところから来ています。



ススキ(芒 薄)。穂の形が動物のしっぽに似ていることから尾花(おばな)とも言います。ススキの葉や茎はとても硬くて耐久性があるので、かつては茅葺(かやぶ)き屋根の材料として利用されていました。刈屋根(かりやね)が転じてカヤ(茅)となったそうです。ススキの穂は花がたくさん集まったもので、蕾の内うち穂は閉じています。花が咲く頃になると穂を開いて花粉を飛ばし、花が終わると(受粉すると)穂を開いて種を作り、種が熟すとまた穂を広げて種を遠くへ飛ばすとのこと。秋のお月見にススキをいけるのは、稲に見立てて豊作を祈るためです。私が子供の頃はお月見の終わった十月中頃から十一月が稲刈りでした。ビニールのトンネルで苗を育てるので、田植えも稲刈りも早くなり秋の台風を心配するまでに収穫できるようになりました。結果、秋祭りは昔は豊作祈願でしたが、今日では豊作お礼になっていきますね。写真はタカノハススキ(鷹の羽薄)。

○もう一つ蛇足。

九月二日は満月ですが、この日は旧暦の七月十五日です。旧暦の八月十五日、つまり今年の中秋の名月(十五夜)は十月一日です。ただし、満月である望月(もちづき ぼうげつ)は天文学的には翌日の十月二日となります。

♪薄紅の秋桜(コスモス)が秋の日の

何気ない陽溜まりに揺れている

この頃涙もろくなった母が

庭先で一つ咳をする

縁側でアルバムを開いては

私の幼い日の思い出を

何度も同じ話繰り返す

独り言みたいにも 小さな声で

こんな小春日和の穏やかな日は

貴方の優しさがしみてくる

明日(あした)嫁ぐ私に 苦労はしても

笑い話に時が変えるよ

心配いらないと笑ったよ

『秋桜』 作詞・作曲 さだまさし

秋桜が咲き出しま

した。



チョコレートコスモスが咲き続けています。



立華新風体。ヨウシユヤマゴボウ、ススキ、アキノエノコロ、ハナトラノオ、ファイリミズヒキソウ、カッコウアザミ、ヤマシダ、ヒマラヤユキノシタ。



生花新風体。ススキ、フウセンカズラ、ケイトウ。ススキを使うと秋らしくなりますね。

2ページの生け花は先週の稽古で生けたものです。こう暑くては、庭には生けたいメインの花がありませんので、道端の雑草を使いました。また、ススキを使うと一気に秋らしい花になるのが嬉しい。未だに暑いからこそ、ススキで秋の風情を愉しみたいものです。

(あえてたのしむを楽しむでなく、愉しむと書いていますが、自分からのいい気持ちを作り出したいい思いを込めて愉しむと書きました。)

今日、注文をしていました井口寒来著『尾花の詩(すすきのうた)』が来ました。同じ社中のMさんがこの先生に学んでおられる縁で購入しました。H杯の花のすべてにススキが使われています。雑草と侮るべからずですね。私がいただいた本の最初の白ページには、「遊戯三昧」と、先生の墨書がありました。そんな境地で生けられるようになりたいものです。



暑い中、クレマチスが頑張っていますので、生け花にパチン。

今日の稽古も雑草を使いました。洋種山牛蒡は道端に生えていたものです。エノコログサは隣の畑の雑草の中に見つけました。ススキも道端でよく見かけますが、使ったのは畑の隅のタカノハススキです。秋の風情は雑草たちに任せておきましょう。

次の月次会もコロナ禍のため、HP上の研修です。十月に向け稽古に励みましよう。暑いですが、せめて稽古をしているときは、快川和尚のように心頭を滅却すれば火もまた涼しそうそぶいていたいものです。



立華新風体。

ヨウシュヤマゴボウ、ススキ、コスモス、ケイトウ、観賞用唐辛子、初雪草、アメリカカタマリシモツケ、シラン。



生花新風体。

ツルウメモドキ、クレマチス、エノコログサ。



生花新風体。ススキ、コスモス、モミジアオイ。

ヘラオオバコ(笹大葉子)
オオバコの仲間で、葉がへらのようになっています。道端にたくさん見られます。



